

令和7年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立五箇小学校長

令和7年4月17日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は6年生で、国語、算数、理科の3教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語	66.8%					○
算数	58.0%					○
理科	57.1%					○

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	76.9%					○
情報の扱い方に関する事項	63.1%					○
我が国の言語文化に関する事項	81.2%					○
話すこと・聞くこと	66.3%					○
書くこと	69.5%					○
読むこと	57.5%					○

【考 察】

- 全領域で全国平均を上回りました。特に、「書くこと」の領域において高い正答率となりました。文章を書くことにおいて、自分の考えが伝わるよう書き方を工夫したり、意図に応じて分かりやすく書いたりする力が身についています。
- 「読むこと」の領域では、文章を読み、時間的な順序や事柄の順序を捉えて読む力がついています。しかし、文章全体の要旨を捉えたり、文章と図表を結び付け必要な情報を見つけたりすることに課題が見られました。授業において、児童同士の話し合い活動や、書く活動を工夫するなどして、教材文の要旨を捉えたり必要な情報を見つけたりできるような力が身につくよう継続した指導を行っていきます。

【算数：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	62.3%					○
図形	56.2%				○	
測定	54.8%					○
変化と関係	57.5%					○
データの活用	62.6%					○

【考 察】

- 全領域で全国平均を上回りました。特に、「数と計算」の領域において高い正答率となりました。「学習タイム」や「確認テスト」などを継続して行ってきたことで、基礎的な知識・技能を身につけることができました。今後も継続して行っていく予定です。
- 「図形」の領域では、図形の性質や定義を基にした作図の理解に課題が見られ

ました。授業において、実際に図形を描く活動を重視しながら、図形の性質や定義をもとに描くことへの理解を深めていきます。また、「データの活用」の領域では、グラフの情報を正しく読み取って、言葉や数を使って説明する問題に課題が見られました。適切な言葉を選び、条件を整理して考えることができるよう指導していきます。

【理科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
エネルギー	46.7%					○
粒 子	51.4%					○
生 命	52.0%					○
地 球	66.7%					○

【考 察】

- 全領域で全国平均を上回りました。特に、実験で得られた結果を基に、他の条件で実験を行ったときの結果を予想して考えるような力が身についています。今後も、実験の方法を検討・改善し、子ども達が興味関心をもって取り組むことができるよう授業の工夫を行っていきます。
- 3・4年で学習した「金属の性質」に関する問題に課題が見られました。今後は、単元同士のつながりを意識し、関連する既習事項について確認しながら学習を行っていきます。また、問題の意図を読み取り、どの資料を活用したら解決できるかを判断する力を身につけることも求められているため、文章読解力も高めたいけるよう指導を行っていきます。

令和7年度 全国学力・学習状況調査 質問紙調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立五箇小学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、一部ですがその結果及び考察をお知らせいたします。

特に、児童の家庭学習の取組や授業の様子に関する調査結果を公表し、学校と家庭・地域の協力体制を強化していくことを目的としています。

この結果を、ぜひご家庭でも子どもさんと一緒に話し合っ、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いいたします。

- 1 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

		できている	どちらかといえば できている	どちらかといえば できていない	できていない
小	全 国	32.6	49.1	15.3	2.8
6	五箇小	20.0	70.0	10.0	0.0

(単位 %)

【考 察】

- ほとんどの児童が肯定的な回答をしました。学校では、一度自分で考えてから友だちと交流するなど、分からないことを一度自分で調べて考えることを大切にして指導してきました。今後は、友だちがどのように調べているか、学び方を共有していくことで、学び方の引き出しを増やし、必要に応じて自分で学び方を選択していくことができるようにします。
- 身近な地域のことから児童の問いや疑問を引き出し、調べ学習への意欲を高めながら、学び方を工夫し考えられるよう指導していきます。

- 2 授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
小	全 国	12.1	12.8	29.1	27.4	12.9	5.7
6	五箇小	0.0	10.0	60.0	30.0	0.0	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 本校が目標としている「学年×10+10分」をすべての児童が達成できるよう、自主学習の進め方や、家庭学習への取り組み方について指導しています。7割の児童が目標を達成することができています。今後も、友だちの自主学習を紹介したり、お互いに見合ったりする中で、学習内容のバリエーションを増やし、児童の学習に対する興味関心を高め、主体的に家庭での学習に取り組むよう工夫します。
- 今後も「家庭学習の手引き」を基本に、児童の実態に応じた宿題や課題等を工夫していきます。また、家庭との連携による「メディアコントロール」の推進により、学習時間の確保と充実に努めていきます。

3 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小 6	全 国	31.2	48.2	17.1	3.3
	五箇小	30.0	50.0	10.0	10.0

(単位 %)

【考 察】

- 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた回答の割合がほぼ全国平均となっています。今後も、分かった点については、学習したことを自分の言葉で説明し、確実な定着を図ったり、分からなかった点については児童同士でどうしたら解決できるのかを考える機会を設けたりすることで、次の学習につなげていけるよう指導していきます。
- 日々の授業の中で、以前に学習した単元とのつながりを見つけさせることを意識しています。今後は、これまでの学習とのつながりを教師が見つけさせるのではなく、児童が気づき、見つけられるような問いかけを工夫していきます。

4 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小 6	全 国	40.9	44.0	11.5	2.7
	五箇小	60.0	30.0	10.0	0.0

(単位 %)

【考 察】

- ほとんどの児童が肯定的な回答をしました。学校全体で「つながる学び」ができるように「自分の考えを伝える」ことに力を入れて指導しており、そのことが話し合う活動に取り組む児童の積極的な態度につながっています。今後も、話し合い活動前後での考えの変容を意識しながら学習できるように指導していきます。
- 生活場面においても友だち同士で話し合いながら活動する姿が見られます。児童同士がお互いの意見を認め合いながら生活できることが、学習面での話し合い活動の活発化にもつながっていると感じます。児童同士の良いつながりが継続できるように今後も指導していきます。